

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

TOPICS ●トピックス

親子ふれあい 医療フェスティバル

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



富山県ドクターヘリデモンストレーション

CONTENTS ●もくじ

TOPICS 親子ふれあい医療フェスティバル…	P.01
富岳先生の診察室から…	P.03
平成28年度 健康づくり教室開講…	P.04
診療コラム…	P.05
病院★ニュース…	P.06
病院からのお知らせ掲示板…	P.06
まちかど情報…	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。

第5回
夏休み
親子ふれあい

医療フェスティバル

平成28年8月7日(日)に当院で第5回夏休み親子ふれあい医療フェスティバルをつなぐる命、みんなで守る命を開催しました。このフェスティバルは平成24年から、小中学生及びその保護者を対象に病気の検査、治療方法の体験を通して医療に興味を持ってもらうことを目的に毎年開催しており、今年で第5回目となります。参加者は年々増加しており、氷見市、高岡市をはじめ石川県の羽咋市、七尾市、金沢市からたくさんの方の参加があり、小中学生120名、保護者80名の計200名の参加となりました。

はじめに齋藤人志病院院長から、「病院とはどういったところなのか、どのような仕事をしているのかを最新



の医療機器に触れる体験を通して学んでください」と挨拶がありました。

講演

いきいきとした命のため
やる気スイッチオン!

総合診療科 神田 享勉 教授・副院長

総合診療科 神田享勉教授・副院長はテレビドラマ「コウノドリ」から綾野剛さん演じる主人公に扮し、「いきいきとした命のためやる気スイッチオン!」と題してクイズ形式で講演されました。子どもへの意欲亢進には疲労させないことが重要であり、ストレス過剰状態をさけることや楽しいことを入れる、運動してからの勉強すると良いことなどが説明され、具



体的に1.リズムミカルな運動、2.メンタルトレーニング、3.良い仲間を持つ、他人の役に立つ、4.太陽の光を浴びる、5.グルーミング、スキンシップの5つを行うことでやる気が出るとユーモアたっぷりにお話されました。

実技型講演

ドクターヘリ・救急車を
見てみよう!

富山県立中央病院 小倉 憲一
救急救命センター長(ドクターヘリ)
氷見市消防本部 浅付 勇一
救急隊長(救急車)

昨年8月から富山県内の救急現場で活躍しているドクターヘリと氷見市消防本部の救急車との連携による最新救急医療体制の現状を理解してもらおうと、ドクターヘリ、救急車の展示及び講演を行いました。富山県立中央病院の小倉憲一救急救命センター長からドクターヘリについて説明され、高さ2450メートルまで飛べ、最高時速300キロとなるなど国内でも有数の最新鋭となる機体であることが説明さ



れました。続いて氷見市消防本部 浅付勇一救急隊長から、救急車の役割や装備内容について説明されました。

参加者は、ドクターヘリや救急車に触れたり、中



に乗り込んだりして記念撮影も楽しみました。

体験型講演

食品をグループ分けしてみよう!

栄養部 管理栄養士 長谷 恵 課長代理

代理から、食品をグループ分けしてみようとして、食品を血液や筋肉など体の材料となる赤グループ、エネルギーとなり、体を動かすものとなる黄色グループ、体の調子を整える緑グループに分けるクイズ形式による講演が行われました。ワカメは何グループになるかなど少し難しい問題に参加者は戸惑いつつ、グループ分けクイズを楽しみ、元気に過ごすためには、3色(黄色、赤、緑)がそろった食事をしましょうとお話されました。



医療体験コース

高学年コース(小学4・5・6年生、中学生)
低学年コース(小学1・2・3年生)

高学年コース

①手術室見学コース

普段は入れない手術室の様子や手術機器を見学しました。また、実際に使用している脳外科用のマイク口頭微鏡を用いて脳の模型に置いた折鶴をセッティングする体験をしました。



③放射線3D画像体験コース

血管撮影装置やCT装置を使い、箱の中に隠した果物や模型の画像を確認したり、実際の血管やお腹の写真を見ながら診療にどのように使われているかを学びました。



し)を高めるために工夫して自分できることの大切さを学びました。

低学年コース

①中央臨床検査部見学コース

生化学自動分析装置の見学や血液の構成を学んだあと、遠心分離機で分離した血液で何がわかるのかや尿の中に血、細菌、薬剤が出ている様子を顕微鏡で観察しました。



③看護体験コース

細動器を使い、救急現場さながらの救急救命の体験をしました。



聴診器でお父さんお母さんとお互いに心臓の音を聞いたり、清涼飲料水を飲んだ時にのどを通る音を聞いたりしました。



また、ブラックライトを用いて手洗いが上手にできているかを確認したり、ノロウイルスに罹った時に役立つゴミ袋を使った感染防止のエプロンづくりに挑戦しました。



共通コース(高学年、低学年共通)

④腹腔鏡下・内視鏡体験コース

腹腔鏡を操作して体内模型の中の鮎やチョコレートを取り除く体



験をしました。また、内視鏡スコープを胃や腸の模型にいれ、内視鏡の操作や体内の見え方を体験しました。



⑤模擬骨折手術体験コース

骨折した大腿骨の模型を使い骨把持鉗子、ドリル、ネジを用いて整復する模擬骨折手術体験をしました



⑥くすり調剤体験コース

内服剤に見立てたチョコレート菓子やラムネを処方内容に合わせて分包装したり、絵の具を用いてカラフルな軟膏を混ぜ合わせて塗り薬を調剤する体験をしました。



富岳先生の 診察室から

今

年の4月から神経内科医の常勤医師として氷見市民病院に赴任いたしました。よろしくお願

いします。皆さん、神経内科はあまり聞きなれない診療科ではないでしょうか？心の病を見られる診療科と勘違いされていませんか？これから、どんな時に神経内科を受診していただいたら良いかお話ししたいと思います。頭が痛い、手足が勝手に動く、物忘れがする、手足がしびれる、手足がうまく動かない、体がふらふらする、めまいがする、などの時に神経内科に受診していただければその原因を明らかにし治療いたします。

例えば頭が痛いとき、その原因により治療法が変わってきます。先日健康教室で、「慢性頭痛と怖い頭痛」という題名でお話しさせていただきました。怖い頭痛とは①突然の頭痛（5分以内に痛みが最高に達する）、②今までに経験したことのない頭痛、③発熱を伴う頭痛、④頻度が増えている頭痛、⑤50歳以上で初めて

神経内科
臨床教授

富岳
RYO
TOMIOKA
亮

経験した頭痛、⑥手足がしびれる・力が入らないなどを伴う頭痛、⑦興奮状態など神経症状を伴う頭痛です。これらの症状と共に起こる頭痛の中には早急な対応が必要な病気が隠れていることがあり、すぐに受診

することを勧めます。これ以外で以前から頭痛があるが、なかなか良くならない頭痛をお持ちの方も受診をお勧めします。これらの頭痛の中には市販の頭痛薬ではあまり効果を示さない頭痛もありますので、診察させていただき頭痛に合わせてお薬を処方させていただきます。

また、勝手に手足が動く・震える、歩くのが小股になった、急に足が止まるなどの症状はパーキンソン病を疑われますが、同様な症状を示す他の疾患もあります。診察に加え、種々の検査を行い診断し症状に合わせて治療をいたします。パーキンソン病は症状に合わせて薬を飲んでいただき症状を調節していく疾患です。どのような時にどのような症状があるか医師に伝えていただき、それに合わせて薬を調節していきます。少し

気を長くして、病気と上手につき合うことが必要な病気です。

最近もの忘れが気になる方も、当科を受診してください。物忘れ、認知症といっても有名なアルツハイマー病から、聞きなれないびまん性レビー小体病、前頭葉側頭葉型認知症など色々な認知症があります。これらの疾患を診察所見と検査で診断していき、症状に合わせて治療を行っていきます。

手足がしびれる、手足がうまく動かない、体がふらふらする、などの症状は脳から脊髄・末梢神経のどこかに障害があると推測されます。急に症状が出現した場合は脳梗塞・脳出血などの病気が考えられますので、急いで受診していただくことをお勧めします。徐々に症状がひどくなっていくようでしたら大脳・脊髄・末梢神経・筋肉の徐々に起こる慢性の病気が推察されます。診察により大脳・脊髄・末梢神経・筋肉のどの部位に病気があるかを推定しその部位に合わせた検査を受けていただき病気を決定し治療をいたします。

以上、神経内科で扱う病気の一部を簡単に説明いたしました。その他にも多くの病気を神経内科では扱っています。ぜひ、頭が痛い、手足が勝手に動く、物忘れがする、手足がしびれる、手足がうまく動かない、体がふらふらする、めまいがするなどを感しましたら、神経内科を受診ください。

富岳 亮★略歴

【略歴】

- ◎埼玉医科大学病院 内科 研修医
- ◎昭和61年6月 埼玉医科大学 神経内科 助手
- ◎昭和62年1月 栃木県宇都宮済生会病院 研修
- ◎昭和63年4月 埼玉医科大学 神経内科 助手
- ◎平成10年4月 埼玉医科大学 神経内科 病棟医長
- ◎平成12年3月 オーストラリア、ラ・トロップ大学 生化学教室 研究員
- ◎平成14年5月 社会福祉法人毛呂病院 内科部長
- ◎平成16年8月 埼玉医科大学 神経内科 講師・外来医長
- ◎平成24年4月 金沢医科大学 神経内科 准教授
- ◎平成28年4月 金沢医科大学氷見市民病院 神経内科 教授



金沢医科大学氷見市民病院

平成28年度

健康

づくり

教室

開講

教室開講

平成28年5月21日(土)に一般の方を対象に、「健康づくり教室」が開催されました。平成26年度から開催され、今年で3年目を迎え、高岡市や羽咋市、七尾市からも多くの方々から申し込みを頂きました。

本教室は、当院の診療方針の1つである予防医学の一環として患者さんやご家族の方々に広く医療情報を提供し病気や医療についての知識を深めるとともに、地域の方々に受講を通して身近な病院として感じていただき、受診や相談しやすい病院作りを考え、毎年開催しています。

今年度は、「より身近な病気」や「話題の病気」をテーマに5月から11月まで6回の講演が予定されています。



第1回 5月21日(土)

がん予防と検診の大切さ

「がんは決して他人事ではありません」

【講師】病院長(消化器科) 齋藤 人志
【参加者数】126名

齋藤人志病院長から、「がん予防と検診の大切さ」が決められて他人事ではありません」と題して、日本におけるがんの特徴や治療率から始まり、がんの部位別死亡率の年次推移や、がん発生の要因・しくみなどがわかりやすく説明されました。がんに対する一次予防としては、がんにかからないための日常生活「がんを防ぐための12か条」に沿った生活を心がけ自分の体は自分で守るように努力することが重要であること、二次予防として早期発見早期治療が大切で、年に1度は検診を受診すること、

気になる症状があれば直ぐ医療機関へ受診することなどが説明されました。



第2回 6月18日(土)

大動脈瘤

「カテーテルを用いた治療」

【講師】胸部心臓血管外科 講師 小畑 貴司
【参加者数】120名

小畑貴司先生から、「大動脈瘤」はカテーテルを用いた治療」と題して、はじめに血液の循環や血管の名称について説明があり、次に動脈瘤とはどのような病気なのか図解で詳しく説明しながら、治療法として当院で行われている低侵襲的治療の「ステントグラフト内挿術」の歴史や治療方法について説明されました。最後に会場から多くの質問があり、関心の高さが伺えました。



第3回 7月16日(土)

慢性頭痛と怖い頭痛

【講師】神経内科 教授 富岳 亮
【参加者数】121名

富岳亮先生から、「慢性頭痛と怖い頭痛」と題して、緊張性頭痛、片頭痛、群発頭痛などいろいろな原因で頭痛が起こるということをわかりやすく説明されました。緊張性頭痛への対応として体操やストレッチ、マッサージといったストレスの解消をすることが大切であると説明され、体操、ストレッチの方法を実践しました。

また、危険な頭痛として、突然の頭痛や、今まで経験したことのない頭痛などが起こった場合は直ぐに医療機関へ受診することなどが説明されました。



診療コラム

薬剤部

薬剤部は、薬剤師10名、薬剤助手2名、SPD2名の計14名により、調剤・製剤・治験課と薬剤管理課で業務を遂行しています。

また、次代を担う薬剤師を育てるため、薬学部5年生の実務実習も行っております。

調剤業務

当院は地域中核病院として救急医療を担っており、薬剤部も24時間体制で外来及び入院調剤を行い、院内製剤、治験管理、麻薬管理業務等も担当しております。無菌環境で抗がん剤の調製や、点滴栄養剤の混合をしています。

持参薬の鑑別、再調剤

患者さんが現在自宅で服用していた薬を入院時にお持ち頂き、この薬

を確認する持参薬鑑別を行い、薬の重複や相互作用を回避し、今後の治療への大切な情報としています。又、医療スタッフが誤投薬を起こさないように、入院中は持参薬を朝・昼・夕・寝る前等に分包する再調剤を実施して、安心・安全な治療提供の一助となっています。

薬剤管理業務

薬剤師は、入院患者さんの薬について管理を行っています。また、医薬品に関する副作用を中心とした情報の収集・提供、医薬品の購入、病院内全体の医薬品の補給・品質管理を行っています。

医薬品情報管理業務

医薬品は適正に使用しなければ、副作用の出現や健康被害の原因にも

なります。このような医薬品情報を適切・迅速に医療スタッフに伝達し、患者さんを薬害等から救済する支援をすることも薬剤師の役割です。院内で不幸にして起きた薬の有害事象を一元管理する部署としての活動にも力を注いでいます。

地域貢献

僻地診療では、氷見市内の山間地への診察に定期的に行き、薬剤師の視点から、患者さんより情報を収集し、医師・看護師との速やかな情報共有を行っています。

保険調剤薬局との連携

外来患者さんには、院外処方せんを発行し、近隣の保険調剤薬局に処方せんを応需していただいております。病院と保険調剤薬局が患者さん

の薬について「お薬手帳」等を利用し、相互の情報を共有して連携強化する体制作りにも取り組んでいます。

方針

患者さんが医薬品による弊害を被らないように、内服薬・注射薬の禁忌、相互作用や重複薬のチェック、医薬品情報収集、薬歴管理等を充実し、医薬品に関する安全・安心を提供できるよう努めています。

今後、地域包括医療体制構築の中で、高齢の患者さんの在宅医療を充実させていくために、病院内外の医療スタッフと連携し、氷見地区の医療に貢献できる薬剤師活動の提供を心掛けて参ります。



「ふれあい看護体験」開催

5月11日(水)に市民の方を対象に、看護体験のイベントを開催しました。これは、「看護週間」の行事の一環として看護が広く県民に理解されることを目的に毎年開催しています。

今年も多くの方々に参加頂き、看護について学んでもらいました。看護師による健康相談や血圧測定などの健康チェックのコーナーや、家庭でもできる感染予防として「手洗いの方法」「ビニール袋で作る簡易エプロン」の作製なども体験してもらいました。インフルエンザやノロウイルスなど家庭の中でも感染予防をすることができ、参加者は「こんな簡単に使い捨て出来るエプロンが作れるなら実際に使用してみたい」と「もう少し小さくし、介護用の食事エプロンに活用したい」といろいろ



いろいろな感想が聞かれました。

また、「口腔ケアの必要性についても説明があり、「口腔ケアを行うことで肺炎予防につながる話」や口腔ケアの実演も行われました。口腔内を清潔に保つことで、いろいろな病気の予防につながる、健康管理に役立つことも説明されました。

その他、管理栄養士による病気に応じた食事の方法や栄養指導、ポスター掲示による「専門・認定看護師」や「口腔・NST・摂食嚥下リクナーズ会」「りんごステーションについて」の活動紹介がありました。

今後もこのような体験型イベントを開催し、県民の方々に健康管理や病気の予防について関心を高めてもらい、看護が広く理解されるよう働きかけたいと思います。

平成28年度

第1回医療安全研修会

平成28年5月20日(金)17時30分から、当院6階多目的ホールにおいて「平成28年度 第1回医療安全研修会」が開催されました。

講師に富山赤十字血液センター事業部学術品質情報課長 塩原 康司先生をお招きし、「輸血用血液製剤の取り扱いについて」と題して講演が開催されました。当日は、院外参加者を含め

215名の参加がありました。

講演では、富山県や当院における血液製剤の供給状況や取り扱い方法、注意事項などが具体的に説明されました。「輸血用血液製剤」は、関わる機会が少ない職種もある領域ですが、参加者からは「わかりやすい内容で新たな知識を得ることができた。」「今後の業務に大いに参考になる内容だった」など多くの感想が寄せられました。

平成28年度

第1回院内感染対策研修会

平成28年度第1回院内感染対策講習会が「結核」をテーマに6月9日(木)17時30分から当院6階多目的ホールにおいて開催されました。

感染対策小委員会の委員3名が講師となり、「結核の基本的知識」「空気感染予防対策」「曝露後の対応(接触者健診)」について講演しました。参加者は当院職員のほか、氷見市内の行政・介護施設からも参加頂き、309名と多数の方が受講されました。参加者は、「結核は早期発見、早期治療が大切である」ことや、「日本では発生件数も多く身近にあるので、正しい知識の習得や適切な対応の研修を実施することが重要である」など多くの感想が聞かれ、改めて結核について認識した様子でした。

病院からのお知らせ掲示板

「ヘルシークッキング教室」開催のご案内

糖尿病患者さんやそのご家族、糖尿病予備軍の方々に対象に、ヘルシーでバランスの良い糖尿病食についての講演会と調理実習を行いますので興味のある方は是非ご参加ください。

日時 平成28年10月8日(土)
10時から13時まで

場所 JA創作工房「ひみ」

内容 ①講演「糖尿病の食事療法について」講師 内分泌代謝科 准教授

②調理実習「減塩で低カロリーなパランス食」伊藤 智彦

参加費 860円

定員 15名(定員になり次第締切) 問合せ 医事課(内線1024)

世界糖尿病デー

「ブルーサークルinひみ市 民公開講座」開催のご案内

11月14日は「世界糖尿病デー」です。160か国から10億人以上が参加する世界でも有数の糖尿病への啓発の日となっており、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民の皆さんに知って頂く重要な機会です。当院でも市民の方々に対象に、糖尿病の治療についてや運動の必要性についての講演会を行いますので是非この機会にご参加ください。

日時 平成28年11月5日(土)
14時から(受付開始13時30分)

場所 金沢医科大学氷見市民病院
6階多目的ホール

参加費無料事前申込不要

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

氷見「今が旬！」

越中伝統梅干し！

稲積梅

「稲積梅」は氷見市の稲積地区で発見された富山県の固有種の梅です。他種の梅と違い、あまり枝を横に張らないのが特長で、雪が枝にたまりにくく、富山のような雪深い土地でも気候に順応し、多くの家庭で栽培されています。

果実は約20g程と小ぶりですが、果肉はふっくらと肉厚で、種が小さく食べやすいです。酸味も十分なため、氷見では古くから多くの家庭で梅干しなどにされてきました。

★梅の効能

ミネラルやクエン酸が豊富です。小さい実ですが、カルシウムはリンゴの4倍、鉄は6倍あり、マグネシウムや亜鉛も多く含まれます。

クエン酸には、食欲増進作用、疲労回復作用、抗酸化作用、殺菌効果、消化吸収促進作用、カルシウムの吸収率を高める等、様々な作用があります。

また、梅を加熱した際に、梅の糖とクエン酸が結合し、血栓予防や老廃物の排泄、疲労回復等の効果が期待される成分が作られるため、梅ジャムや梅ジュースもおススメです。

注意！

梅干は1個2gの塩分があるとされています！
 高血圧症等の塩分制限の必要な方は控えるように
 しましょう。

稲積梅★豆知識

★病気に強く、使用する農薬もごくわずか！
 減農薬が可能！

★南高梅などと一緒に植えるとさらに実付きがよくなる！
 また、花粉が多いので受粉樹としても利用！



表紙について

富山県のドクターヘリは、富山県立中央病院を基地病院とし、富山県全域及び岐阜県飛騨地域北部が出勤範囲で半径93kmをおよそ20分で飛行しています。救急現場への出勤要請は原則として、運航範囲内の消防機関が要請し、あらかじめ設定されたランデブーポイントに着陸し、救急車と合流し迅速に搬送や救急医療を行っています。ドクターヘリの運航は、病院から遠い地域からの搬送時間が短縮できるだけでなく、医療スタッフが重篤な救急患者に対してより早期に接触して必要な診断や処置を行うことができ、救命率の向上や後遺症の軽減が期待できます。

編集後記

今回のリオオリンピックでは、富山県出身の2選手が金メダルを獲得しました。日本が獲得した金メダルの4分の1が、北陸出身の選手だそうです。白熱した試合に、暑さも忘れ、連日応援されていた方も沢山いらっしゃったのではないのでしょうか？これから、夏に引続きイベントが多い季節です。当院でも、様々な行事が予定され、広報に紹介されています。興味のある方は是非ご参加下さい。

かけはし夏号編集委員 有澤 夏美

■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。